

会 員 の 異 動

氏名	生年月日	〒	自宅住所	TEL	勤務先
田中 すま子		658	神戸市東灘区住吉町7-71-1		住所移動
近藤 角三郎			東京都三鷹市上連雀8-1-24 産住アパートB58	0422-49-0286	〃
橋本 時二郎			東大阪市稻葉1-5-54		〃
樽谷 勘三郎		472	愛知県知立市昭和4-17-2	0566-81-3515	〃
松岡 俊一				0798-74-1671	電話番号変更
山崎 敏明				0798-71-9763	〃

哀悼錄

氏名	物故年月日	享年	夫人又は嗣子	〒	自宅住所	TEL
森下金吾	52. 6. 22			569	岡山県久米郡中央町小原	
中井義雄	52. 7. 25		しづ 四郎	658	神戸市東灘区本山町岡本字十文字山1203-37	
越智望	52. 8. 15		さかえ 福雄	658	神戸市東灘区本山中町4-12-28	
志智繁太郎	52. 8. 29			658	神戸市東灘区本庄町1-14-26	
森田歳一	52. 6. 6		きみ	658	神戸市東灘区本山町野寄字手崎15	
北西伊佐久	52. 9. 7				川崎市多摩区王禅寺2375-8	
杉村芳孝	52. 9. 8		慶		堺市赤坂台5-17-12	
石阪慶一郎	52. 9. 18				神戸市兵庫区会下山町1-57	
加藤富雄	52. 9. 18		顕 さつみ		東京都世田谷区代田2-35-13	
伴資凱	52. 9. 17			658	神戸市東灘区住吉東町1-4-20	
島野能武男	52. 9. 19				東京都品川区東大井3-13-18	



渋谷油脂株式会社
大阪特殊車輛株式会社
特車商事株式会社
社長 渥谷義雄
自宅 神戸市葺合区神仙寺通三丁目四一五
電話 (078) 二二一一二四八三番
大阪市城東区天王町二丁目三三
電話 (06) 九六九一一二三四番代
電話 (06) 九六九一一二三四番代

相模の秀峰大山の南麓、鶴巻温で会食にありついた。

昭和五十三年度祝盃贈呈者

が心の故里鈴木商店の支店があつたのかと、同旧の念を新たに致しました。そしてマア一服と云わわれて隣の御店に案内されました。庄いお店に入ると、當時神戸阜頭に貢糖溶解設備一位の名古屋精糖のポスターがベタベタ貼つてあるのが目につきました。砂糖の大手商店だナーリと直感いたしましたが、砂糖の御話は少しも出ず仕舞いで辞去いたしました。今南岬の賦を誦んで、鈴木の事業を継承し、鳴内さんへんで、鈴木商店没後、松川嘉太郎さんの出資で大成商事が設立されま

中に、函館支店で嶋内さんが塩業部主任で、支店次長吉原さんの名前が出ていましたが、その吉原さんは鈴木没落直前、大阪支店の砂糖部に帰つて来られた事で、後に上村政吉支店長さんが砂糖問屋田屋商店を設立されたと前後して、吉原商店を設立なさつた方で、昭和十五、六年頃が物資統制令のやかましい頃、青雲の志も空しく非業の最後を遂げられた吉原猛禧さんの事かと同情を禁じ得ません。遠く過ぎ去りし日の思い出に感無量を覚えます。

の如きが替の円高（十一月二十四日）の及ぼす影響は各界の不利になることは憤慨の耐えない。又この関連の幾多の下請部分品工業にも御多分にもれず之が皺寄せが来ること誠に憂べき問題である。この工場に於ける自動車向けのネジの検査は殊に嚴重で、これには泣かされると工具がこぼしていたが、道理でネジ一本でも疎かには出来ないことが納得出来たことを謝す……。

泉、光鶴園は戦前から碁、将棋名人戦の行われたところだけに大きな構えである。到着早々空腹かかえて古今文化民族資料展示「黄庵」を見る。庭先きの茂み中には大小の○○石が散々してるので、これはと思い屋内にはると何千と云う中折帽然たる珍の群像、之には驚きももの木でつた。案内の爺さん得々とこの明に余念なく、最後に祭祠の本を挙む仕掛けになっていた。この不思議にも外から辰巳会と名のく若ものが合流して来て共に長しい祝詞口調の爺さんの道祖の醜味の話いつ果てそうにもない

藏の主人公柘山寿郎氏が挨拶を出されたが、この人大正年間藤田謙一氏（鈴木商店霞ヶ関の仕事を長崎英造氏と共に勤めた人）の秘書を勤務のちに東京毛織入り、士阪モスリンと合併して合同毛織と社名変りては社長竹村房吉氏の斐下に属されて来たと云われた。

宴では西川支部長、鈴木丸衛長老、坂本寿氏らの四方八方話に花が咲き笑聲は座に充ち溢れた。時間も終ったところで助野さんの万歳三唱、再会までの健康を祈念しながら解散丁度四時頃であつた。

偉大な鈴木の足跡

藤沢義夫

昭和二十六年から二十九年一杯 知いたし前記の松川さんが松川喜
私は第一の人生航路を札幌に留め 太郎さんに間違いないと思うよう
で小樽の北海製缶を訪れましたが、 になりました。

その日御昼の席を設けて戴き、当 それから一、二年して札幌の道
時小樽の商業会議所の会頭をなさ 庁界隈に、当時札幌には珍らしい
つていた松川さんを紹介されまし 大五ビルが建つて目をひきました。
た。松川さんは宴席から眼下にひ その大五ビルがこれも鈴木に関係
るがる小樽港を指差し、この港も ある羽幌炭鉱鉄道の商事部門を分
往時は外国貿易船の入港跡を絶た 離した大五商事と云つて、嶋内さ
ず、随分挽わつたものですよと感 んがその経営に当つていらつしや
慨深そうに言われ、突然「鈴木商 つたと知り、それこそ見えざる鈴
店の跡がそのまま残っていますよ 木の糸につながつて、嶋内さんの
と申され、食後御案内を戴き、木 残された大きな足跡を何も知らず
して仰ぎ見ていた事を覚りました。

藤沢義夫

偉大な鈴木の足跡